

# 障害をもつ子供たち

信濃医療福祉センター 尾 臺 恵 美

## 1. はじめに

私達健常者と呼ばれる者は、生まれながらに心身に自由が与えられています。しかし、障害児と呼ばれる子供達にとっては、毎日のリハビリテーションや生活の工夫によって心身の自由を獲得していかなければなりません。こうした子供達の努力は、ノーマライゼーションの実現が完全に為されていない私達の社会では、知る事も、触れる機会さえも少ないのではないかと思います。そこで、障害児と呼ばれるなかでも、肢体不自由児とされる子供達の障害や施設の様子を紹介するとともに、私達保母が、療育の実践の中で痛感させられた遊びの大切さ、についても報告したいと思います。

## 2. 肢体不自由児とは

「肢体不自由児は、四肢・体幹に不自由なところがあり、そのままでは将来生業を営むうえに支障をきたすおそれのある児童」（高木憲次博士）と定義づけられています。子供達の四肢・体幹に不自由をきたしている原因の主なものは、脳や脊髄の損傷です。

表1. 肢体挿入所児の疾患別・年令別内訳（定員80名）（平成5年4月1日現在）

病 名 年 令	脳疾患原		ペ ル テ ス 病	二 分 脊 椎	先 天 性 股 間 節 脱 臼	先 天 性 内 反 足	ア ル ト ロ グ リ ボ ー ジ ス	骨 系 統 疾 患	脊 椎 側 弯	外 傷 後 遺 症	進 行 性 筋 ・ 神 經 疾 患	デ ィ ス メ リ ー	股 関 節 炎	そ の 他 整 形 外 科 的 疾 患	く る 病	ポ リ オ	そ の 他	計	比 率 %
	脳 性 麻 痺	そ の 他																	
0～5歳	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	7	10.
6～12歳	13	1	7	3	-	-	2	1	-	2	3	-	-	-	-	-	2	34	48.
3～15歳	9	1	-	1	-	-	1	-	-	2	4	-	-	-	-	-	3	21	30.
16歳～	3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	8	11.
計	26	3	7	4	0	0	3	2	0	5	10	0	0	0	0	0	10	70	100
比率(%)	37.	4.3	10.	5.7	-	-	4.3	2.9	-	7.1	14.	-	-	-	-	-	14.	100	

## 1) 子供の疾患と障害

### 1. 脊髄疾患

脊髄は、人間が生きていくために必要な生理現象のひとつ、排泄に関する機能のコントロールを司っています。脊髄に損傷を受けている子供は、排泄コントロールが生理的に行われず尿意を感じたり、我慢することができません。ですから、決められた時間に排泄行為を自分で行います。排尿は、カテーテルという管を尿道から差し込み流出します。排便は、摘便といって指で便を摘出します。排泄物を体内に留めておくことは、他の臓器への菌感染につながりますから怠慢は許されません。幼年者であろうと、睡眠中であろうとも起こされ、睡魔と闘いながら排泄訓練に励んでいます。

### 2. 脳疾患

子供達の疾患の中で一番多い脳性麻痺は、胎児もしくは新生児期の未熟なうちに脳のある部分が損傷を受けて生じた運動障害です。運動障害の運動とは、筋群が制御されたり調整されたりして動く運動（咀嚼や眼球運動など）すべてを指します。損傷部位によって症状は異なりますが、自分の意志通りに体を動かすことが困難であるうえ、不随意運動が伴ってしまう子供もいます。又、脳は思考・知覚・運動を連鎖させている中枢部位です。ですから、私達の体験・学習に大きく関与していることは言うまでもありませんが、脳性麻痺の子供は、体験、学習の過程に障害が生じ、成長を促す体験＝学習とはなかなか結びつかないことがあります。繰り返し体験したり、良い援助を受けるなかで、障害を克服できる力を養えるものと、保母の私達も工夫と努力を惜しまず援助していきたいと思っています。

## 3. 肢体不自由児施設の概要について

このように子供達の疾患は、脳や脊髄など人間の中枢部位に損傷を受けているものですから、成長・発達能力に影響を及ぼし、ともすれば生命の維持さえも支障をきたす場合があります。ですから、医師や看護婦による治療や状態管理、身体機能向上のための医学的リハビリテーションが必要となり為されています。私達保母は、それらを併せて子供の成長、発達段階に応じた援助や社会生活に必要な知識や動作の獲得を目的とした指導を行います。このように、あらゆる分野が統合され、連携を取りながら子供達をアプローチ（チームアプローチ）している施設です。

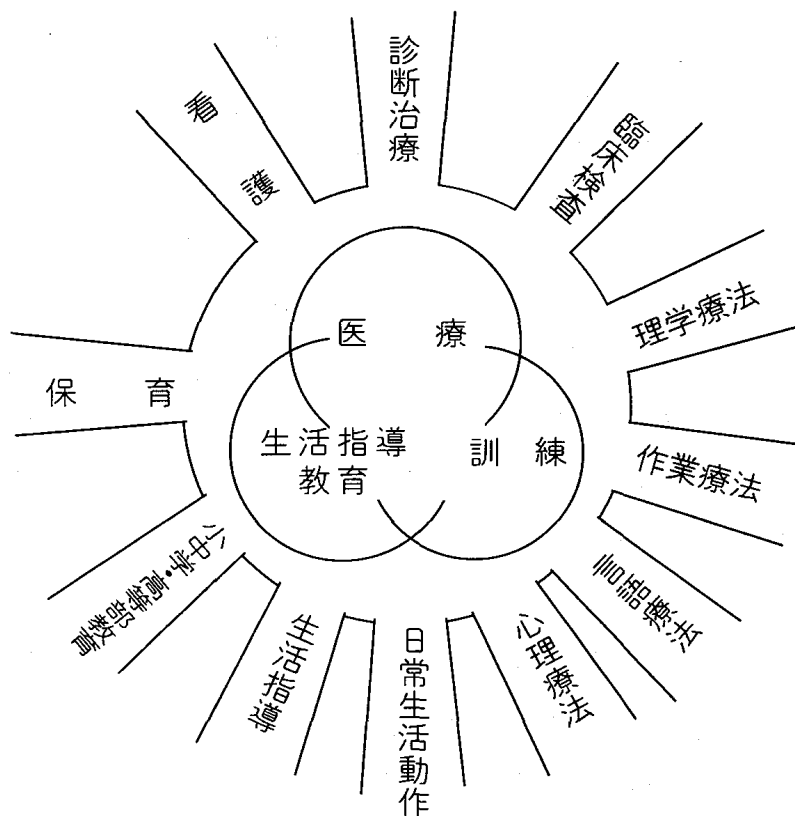


図1 〈入所児に対する総合リハビリテーション療育体系〉

表 2 職 員 の 状 況

(平成5年4月1日現在)

	医師	歯科医師	薬剤師	放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	言語治療員	心理判定員	歯科衛生士	医療社会事業員	看護婦(士)・准看護婦(士)	看護助手	指導員・保母	医事係	事務(庶務・会計・用度)	栄養士・調理師(委託)	ボイラー技師・設備員	運転士	洗濯・縫製員	計
肢体棟	4(5)	(1)	1	2	2	8	8	2	1	1	2	30	4(2)	13	2	5	1	1	1	1	90
重心棟	1(2)	(1)				2	2	1	1			18	3	14	1	1				(1)	43
合 計	5(7)	(2)	1	2	2	10	10	3	2	1	2	48(2)	7(2)	27	3	6	1委託(8)	1	1	1(1)	133(14)

( ) は、非常勤、パート 別計

表 3 児 童 の 日 課

(肢体自由児棟)

	病棟				機能治療	保育	学校	勤務形態			
	生活	入浴	学習	看護・治療							
6:30	起床・更衣 洗顔・体操			検 温				<div>↑C ↓C ↑A ↓A ↑B ↓B ↑C ↓C</div> <div>早出 遅出</div>			
7:30	朝食			申し送り					朝 会	課題保育 (月～金) 交流保育(金)	第 1 時 限 第 2 時 限 第 3 時 限 第 4 時 限
8:30	登 校										
9:30			(月～金)						検 温		
10:30					申し送り	PT OT ST (月～金)	午 睡				
12:00			昼 食	(月～金)					定期看護処置 病棟訓練 他科受診 回診(月)		自由遊び (月～金)
13:00											
14:00											
14:30	おやつ										
15:00	余 暇 グループ指導										
17:00		学習	申し送り								
18:00	夕食										
19:00	部屋指導		検 温								
20:30	就 寝	自習	病棟訓練 (ADL)								
21:00			定期巡視								
0:30			定期巡視								
1:00			申し送り								
			定期巡視								

子供達は、適切な医療と教育を受けるために家族のもとを離れて入所していますが、毎日のリハビリ生活に励みながら自分のやりたいことに挑戦（バンド結成やワープロ検定受験など）したり、週末、家族のもとへ帰省し楽しい時を過ごしています。

#### 4. 事例について

当センターにおける学童児は、日常会話に支障がなく、施設内を車椅子で自由に動くことができ、机上の作業も可能です。しかし、余暇時間に何もせずにいたり、仮に遊んでいても単調な様子が見受けられました。そこで、週一時間、遊びを通して余暇の拡大と、児童の様々な面の向上を目的とした活動を試みました。

##### 1) 対象児

小学部 4 年～ 6 年 I Q30～60

主な疾患 脳性麻痺

##### 2) 活動内容

友達と相互作用できる集団遊び

目と手の協応が必要となる絵画製作など

##### 3) 児童の様子と指導留意点

活動当初児童は、指示を受け止め、それに従った行動を取る力がありませんでした。協調性や社会性に欠け、友達と相互作用を高められる段階ではありません。又、

絵画も線描きで表現に乏しいものでした。これらは、障害によって伸びにくい面もありますが、とにかく指導、指示を具体的に何度も行い、児童自身が試行錯誤できる時間と空間を与えるように私達は心がけました。児童は徐々に、遊びが展開できるようになり、次回を楽しみにするようになりました。絵画製作も、表現したいものを形に表そうと工夫する姿が見られたり、道具が使いこなせるようになりました。

#### 4) 考察

全体的に児童の力は、幼児期前半でありましたが、活動を重ねていくうちに多少の変化が見られました。又、幼児期、保育園で過ごした児童は他児と比べると目を引くものがありました。これは、児童の成長過程において、幼児期にふさわしい環境が整えられて発達課題をこなせたか否かの問題ではないかと思われます。私達大人が、運動機能の障害や遅れに捕らわれて過度な援助をしたり、危険とばかりに子供の興味や好奇心に相当する遊びを阻害してしまったのではないのでしょうか。私達保母は、障害の有無に拘わらず、発達課題をこなすことのできる環境設定とアプローチをしなければならないと痛感させられました。

### 5、おわりに

健常者と呼ばれる私達は、外観の良さや物質的な豊かさばかりに捕らわれて、心身の自由ということに意義や価値観を見出せなくなっているのではないのでしょうか。障害を負っている子供達にとっては、心身の自由を感じることのできる豊かな心と意義ある生き方が大切となります。私達保母は、それらを育てることができるような関わりを常に考えてゆきたいと思っております。